

米国 原材料価格の上昇も企業は生産性の向上で吸収(06年6月生産者物価)

発表日：06年7月18日(火)

～価格転嫁率が低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	生産者物価 (Producer Price Indexes)										
	最終財		コア		エネルギー	中間財		原材料	コア		<参考> 輸入物価
05/06	+0.1	(+3.7)	▲0.1	(+2.4)	+1.5	+0.2	▲0.1	▲1.7	▲3.6	▲0.2	56.4
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	▲0.2	58.9
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.5
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	▲1.5	+1.0	62.3
05/11	▲0.5	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲3.1	▲1.3	+0.4	▲1.4	+2.4	▲0.1	58.2
05/12	+0.7	(+5.4)	+0.0	(+1.4)	+2.4	+0.3	+0.4	▲3.5	+1.9	+0.0	59.4
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	+0.3	65.3
06/02	▲1.2	(+3.9)	+0.3	(+1.7)	▲4.5	▲0.5	+0.3	▲8.4	+3.1	▲0.7	61.7
06/03	+0.4	(+3.5)	+0.2	(+1.7)	+1.5	+0.1	+0.2	▲2.4	+0.8	▲0.3	62.9
06/04	+0.9	(+4.0)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+0.9	+0.4	+1.2	+4.7	+0.1	71.8
06/05	+0.2	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.4	+1.1	+1.1	+2.0	+6.2	+0.7	71.0
06/06	+0.5	(+4.9)	+0.2	(+1.9)	+0.7	+0.7	+0.8	▲1.7	+1.7	+0.4	71.0

(出所) 労働省 (Department of Labor)

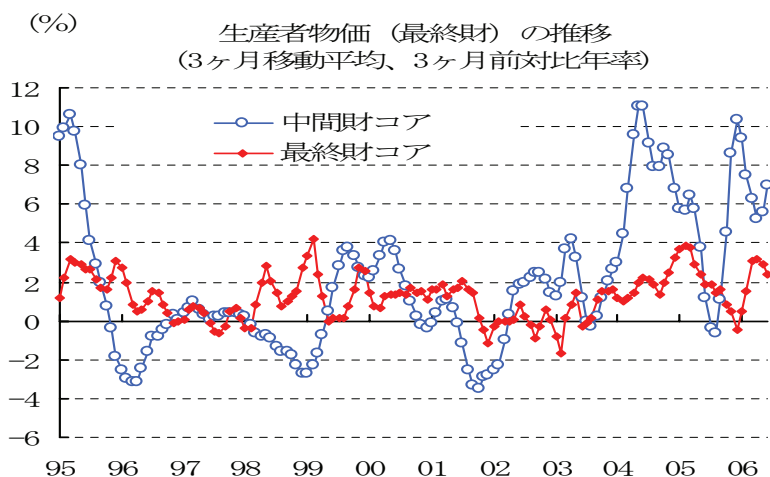
(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比+

0.2%と市場予想通り

06年6月の生産者物価(最終財)は、エネルギー・食料の上昇によって前月比+0.5%と市場予想の同+0.3%を上回った。特に食料品が同+1.4%と高い伸びとなった。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、同+0.2%と市場予想通りの結果となった。前年同月比では+1.9%と小幅加速したが、05年6月に伸びが鈍化した影響であり、一時的。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が昨年12月をピークに5月まで低下傾向を辿ったため、4ヵ月遅れて影響を受ける最終財(コア)は6月に同+2.4%(同+2.9%)と鈍化した後も、9月にかけて低下傾向を辿ると予想される。加えて、2004年以降中間財と最終財での変化率は大きく乖離しており、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっており、最終財(コア)は落ち着いた状態にあると判断される。



資本財、消費財コアともに前月と同率の伸びにとどまった

最終財段階でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では果物、卵、鶏肉等の上昇によって、食品価格は前月比+1.4%（前月同▲0.5%）とプラスに転じた。エネルギーは前月比+0.7%（同+0.4%）と小幅加速した。天然ガスが同▲3.7%（同▲3.1%）とマイナス幅を拡大し、家庭用電力が同▲2.8%（同+0.1%）と下落した。一方、ヒーティングオイルが同+6.5%（同+2.6%）、ガソリンが同+6.3%（同+2.2%）と加速した。

消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比+0.2%（前月同+0.2%）と同率の伸びとなった。消費財（エネルギー・食料品を除く）では、乗用車価格が同+0.9%（同▲0.4%）とプラスに転じた一方、女性・子供用衣服、宝石・貴金属、衛生紙、フロアカーペットが下落した。さらに、石鹸、処方薬が鈍化し、タイヤは横ばいにとどまった。

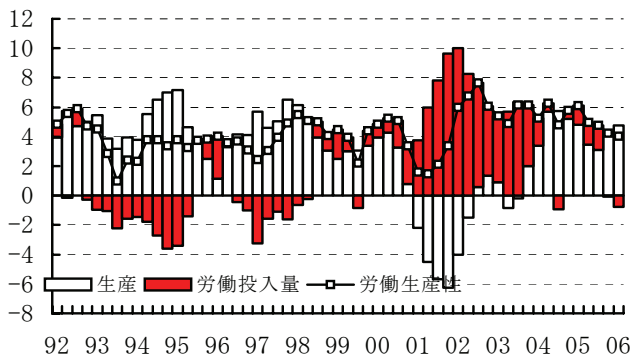
資本財は前月比+0.3%（同+0.3%）と前月と同率の伸びとなった。資本財では、コンピューター価格の下落幅が拡大し、大型トラック、石油・ガス掘削機の伸び率が鈍化した。一方、軽トラック、X線電子機器、鉱業機械、鉄道設備、電圧変換機が上昇した。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

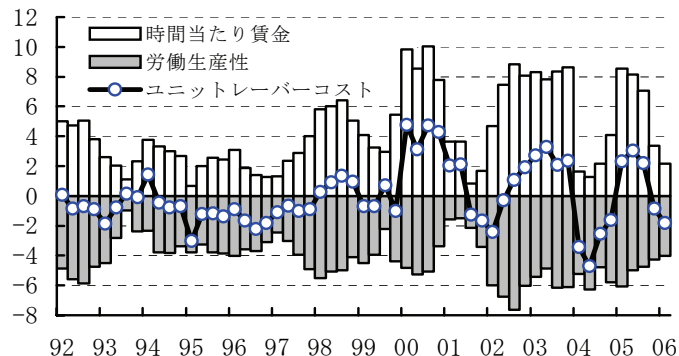
今後に関しては、地政学的なリスクや世界的な景気拡大に伴う供給不足懸念等を背景に商品価格、エネルギー価格が再び上昇している。この動きを受け、中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が2月をボトムに上昇していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で6月に+53.3%（前月+36.7%）と加速したことから中間財コア（6月に同+7.0%）は上昇ペースを速めると見込まれる。

もともと、原材料、中間財で上昇ペースが加速しても、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。

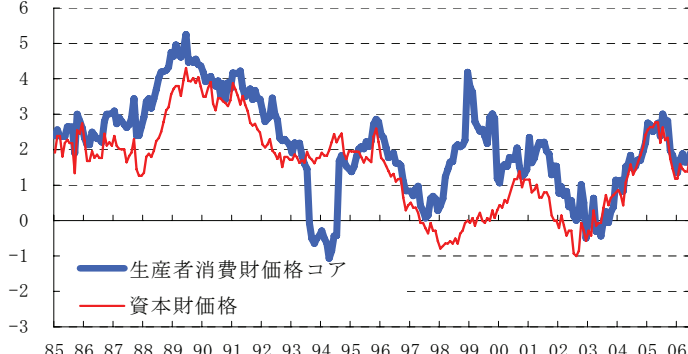
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)

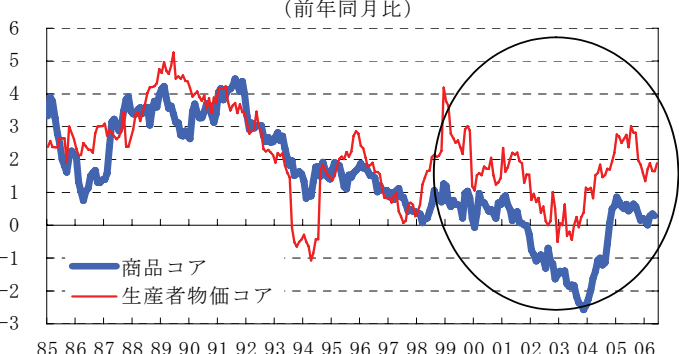


(%) 生産者物価コアと資本財価格の推移(前年同月比)



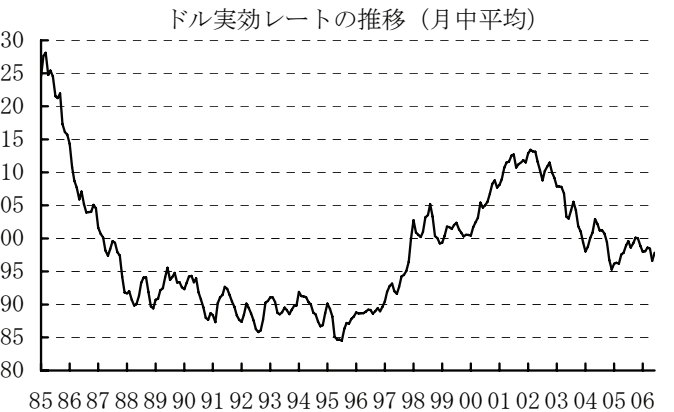
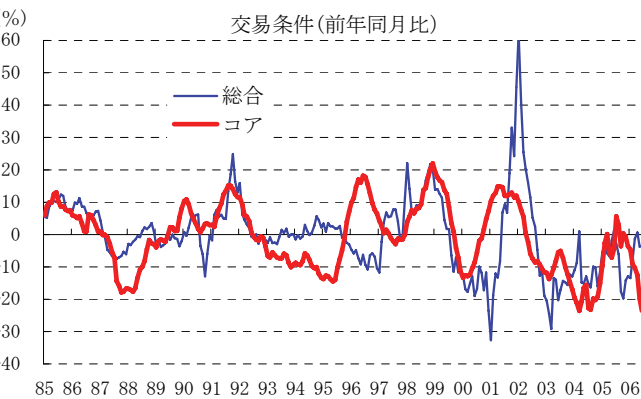
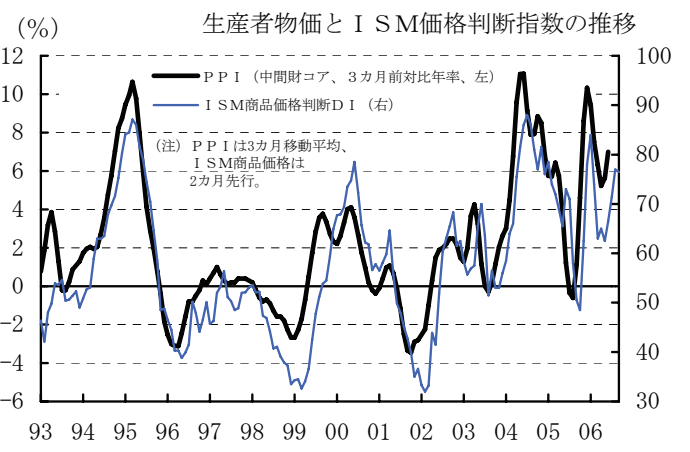
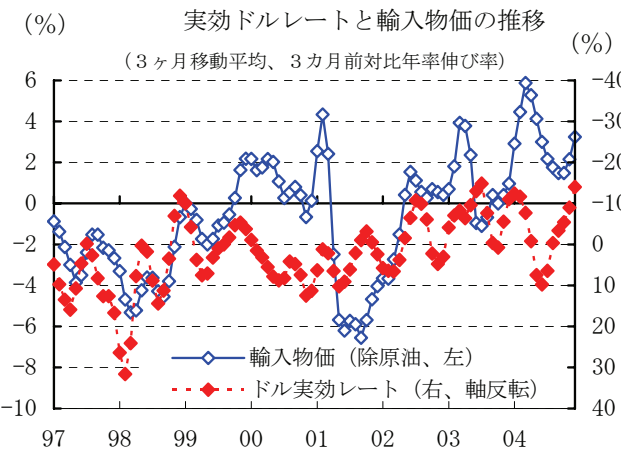
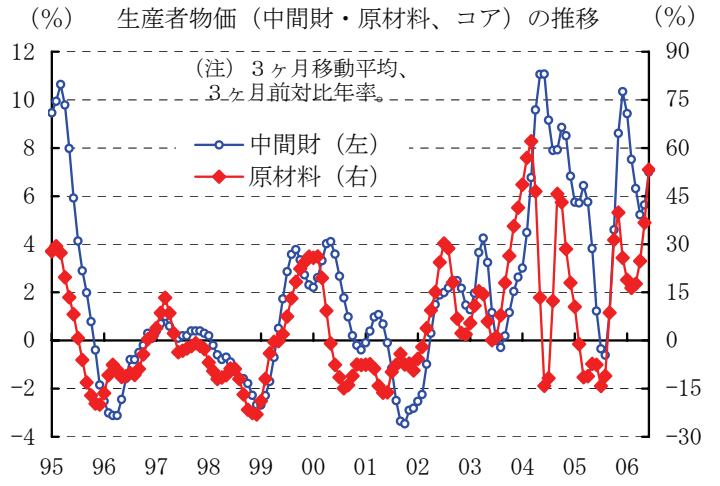
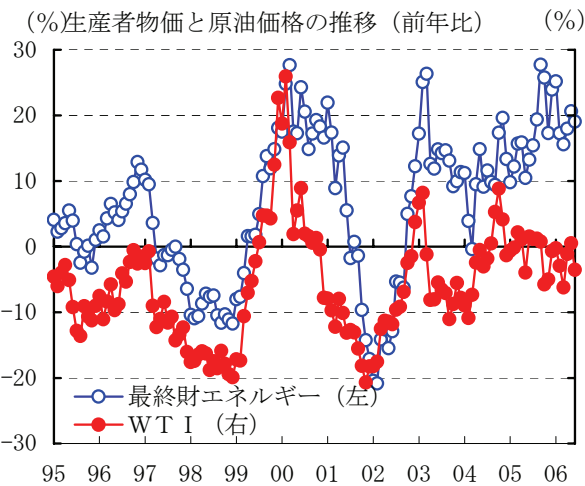
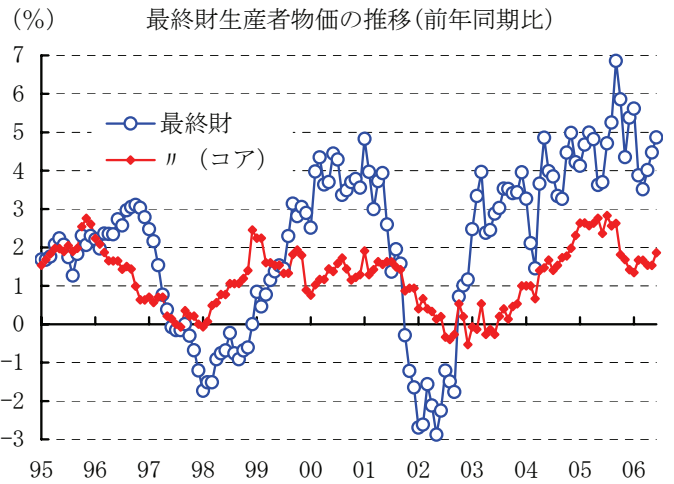
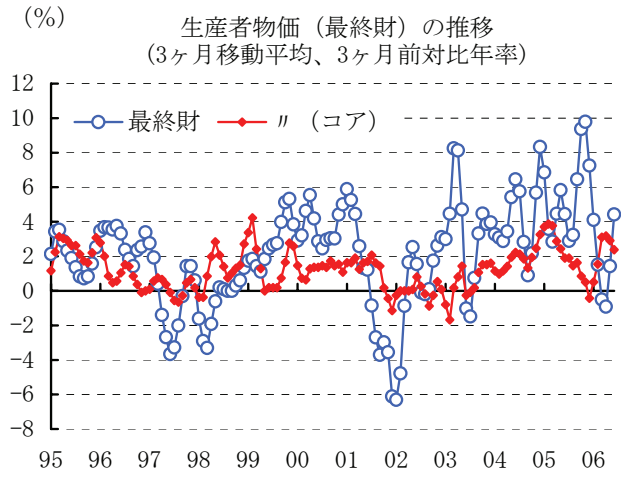
(出所) 米労働省

(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。